

びとう和広後援会ニュース

2009.01.01

第 21 号

発行責任者
長谷川満敏

2009年迎春

虚空蔵山から見た羽束山とご来光！
写真：昨年のお元日

新年明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願いいたします。

後援会の皆様には、日頃より力強いご支援・ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。昨年はお陰をもちまして、再度市議会に送っていただき、ありがとうございました。皆様お一人お一人のご支援の賜物と、心より感謝いたします。

昨年的一年を表す文字は「変」でした。オバマ新大統領の Change (変革) をはじめ、世界的に変化の大きい年だったということでしょうが、私は今の日本、大変だ！変えなければ！と訴えているような気がしてなりません。特に、小泉内閣の後、1年足らずで政権を投げ出す2人の総理に、解散・総選挙に勝てる総理として選出された麻生内閣は、政局より政策と、矢継ぎ早に経済対策を出すのかと思えば、補正予算の先送り、定額給付金のようなバラマキ政策を各地方自治体に丸投げもあり、まさに迷走しています。

この定額給付金、三田市民に17億円渡されます。実務的な手続きは市で行ない、約1億円かかります。合計18億円あれば、三田市では厳しい財政下4年間で47億円の削減中ですから、市民病院や各種補助金削減をしなくても済みます。大切な税金です。しっかりとした仕組みづくりをして欲しいものです。今年こそ政権交代、と信じています

三田市は、改選後初めての本会議が12/1～12/19に開催され、代表質問6人、個人質問9人と活気のある議会となりました。また、各常任委員会でも、質問・議論が相次ぎました。テーマとして、市民病院のあり方、給食センター統合(2センターに集約)、幼稚園の園区・補助金の見直し、ゴミ削減計画などそれぞれの視点から意見を出し合うことができました。

私も会派：民主党三田を代表して一般質問に立ち、市民病院・雇用対策・子育て支援・市街化調整区域・環境・安全について、特に、雇用対策では、全国3万人を超える非正規雇用打ち切りや就職内定取り消しの問題を市としてどう取り組むか、対策を求めました。

後援会活動として、11月に市政報告会を開催し、お礼・状況報告とともに、決意を述べさせていただきました。これからの対話を第一と考え、ご意見・ご要望をお伺いし、市民サービスの一層の向上、安心安全・活気活力のある元気なまちづくりに向け、精一杯頑張って参ります。本年も力強いご支援のほど、よろしくお願いいたします。



三田市議会議員

かずひろ
びとう和広



議会報告(12月定例議会)

■ 12月定例議会(12/1~12/19開催)

12/1: 定例議会(1日目)市長施政方針・議案説明
12/10-11: 定例議会(2、3日目)一般質問
12/19: 定例議会(4日目)採決

<民主党会派の代表質問:(質問者:美藤)>
(び:は質問/答弁に対する私の考えです。)

1. 地域医療からみた市民病院について

問:市民病院より、救急医療のうち、多くの軽度受診の時間負担が急性期医療の障害の一つで、一次受診を掛かりつけ医に徹底して欲しい、と訴えている。地域医療をどのように進めるのか。

答:高齢化の中、循環器疾患の増加や、医師不足による近隣市の患者も増加し、急性期医療の重要性が高まっている。あり方委員会の答申では、脳卒中・心筋梗塞など急性期医療の充実等、二次救急を重点的に受け持つ役目が求められている。日・祝・年末年始の初期救急体制を市医師会・歯科医師会の在宅当番医制、平日・土曜の時間外救急を市民病院など3救急告示病院で当番制により対応している。平成19年度救急外来7417人のうち67%が軽度受診であり、市民病院に求められる高度な救急医療のため、市民病院医師の負担軽減にむけ、一次受診をかかりつけ医の推奨や救急医療の正しい利用など広報などで理解・協力をお願いしている。

問:県の消防圏域(丹波・篠山・三田市の枠組:消防署長は神戸北連携を要望)に対し医療圏域はどうか。

答:消防圏域と同様、医療圏域も阪神北圏域との連携を保ちつつ、神戸圏域との連携を継続する。

び:コンビニ感覚の受診は確かに医師に負担をかけます。ただ、体調が悪くどこを見てもらえばいいのか判らない場合は総合病院に行く心理は分かります。だからこそ、医師確保も地域連携も大切と考えています。個人情報に配慮しながら、電子カルテの導入促進、カルテの共有を図るべきだと考えています。

2. 金融危機の影響をみた雇用問題について

問:全国的な企業の業績下方修正を受け、内定取り消しや派遣やパートの切捨てが横行しているが、三田市はどのように実態を把握し、先行的に対策を考えているのか?

答:有効求人倍率は対前年比0.6倍と大きく低下している。三田市では、平成15年より高年齢者(55歳以上)職業相談室、18年より障害者就業支援センター、20年3月より女性チャレンジ広場、20年10月よりさんだ若者サポートステーションを開設・誘致してきた。中小企業支援として国の10月31日よりセーフティネットの保証制度の拡充に伴い、ホームページ充実の他、市独自に7年以内で2000万円までの中小企業融資振興長期資金融資制度に加え、今年度より1250万円まで小規模融資の追加が容易な制度を新設した。

び:ハローワークが厚生労働省の管轄のように、雇用は国策の影響が強く、地方では、就労相談と企業誘致促進や融資支援が中心です。最近の派遣打ち切りやリストラがないように、また、安心して転職できる仕組みづくりを訴えています。

3. 子育て支援策の問題について

問:幼稚園の園区・補助金・運営問題について、市立幼稚園の保護者、市立の園区だが働くために補助金を受けられない私立幼稚園の保護者、市立に入れぬ私立幼稚園保護者、のそれぞれの問題を十分聞き取ることが必要と考えるがどうか。

答:負担格差は正の声を聞いている。そのため幼児教育振興委員会を設置し、十分に提案いただく。

問:乳幼児医療支援は少子化対策として期待の支援策である。子育て世代が一番苦しい時期であり、この際、児童手当相当の所得制限を撤廃してはどうか。

答:所得水準の低い家庭を対象とした事業であり、一定以上の所得者には応分の負担を求める。

び:一定以上の所得者こそ、市税収入の中心ですから、安心して子育てできるまちづくりで、三田定着を図ることが、都市間競争の柱だと考えています。

4. 市街化調整区域の問題について

問:市街化調整区域で乱開発を止めることができたが、多くの課題も残した。現在の地域的な少子高齢化問題は、新規住宅が建てられず、子育て世代が転入できない市街化調整区域が原因の一つとなっている。市街化調整区域のまちづくりを見直してはどうか。

答:平成10年7月に市全域を都市計画区域とし、線引き見直しを行なった。今でも建築ができる7団地・130区画があり、当時の投機目的も要因と考える。農村部で高齢化率30%超の地域もあり。総合的に総合計画などとの整合性もみた検討を進める。

び:上下水道や学校、テレビ塔・バス問題など生活に密着した問題であり、地域活性化に向け、特にJR駅周辺からでも見直せたら、と考えています。

5. 環境のまちづくりについて

問:家庭ごみ10%削減に対し、ゴミ削減政策の明示はいつ出されるのか。

答:新聞紙や雑誌など古紙類の回収について、区長・自治会長連合会やPTA等の団体の理解と協力を得て、集団回収と行政回収の方法によるモデル地域を早急に設定し、4月から実施の予定。

び:自治会やPTAの集団回収は地域によって、温度差が大きいので、先進事例を紹介し、具体的に相談に応じるだけで、市削減目標に向け大きく進展できるはずです。行政回収はその補完と考えます。

6. 安全のまちづくりについて(自転車・防犯カメラ)

問:自転車走行の安全が守られるように、自転車道・歩道の整備、警察との連携はどうか。

答:フラワータウンと幹線側道は自転車歩行者道が整備済み。新たな市道の道路改良においては3.5m以上の自転車歩行者道の整備を進めていく。安全教室は交通安全協会と連携し実施している。

問:最近の事件では、防犯カメラが事件解決のカギとなっている。量販店だけでなく、小売店や駐車場に防犯カメラの設置を推奨するとともに、市として公園など公共施設への設置を推進してはどうか。

答:市内金融機関・量販店・コンビニ等で設置が進んでいる。公共施設では公園・駐車/駐輪場・市民センターなど18個所に設置している。地域防犯と連携し、これからも必要個所への設置を図る。

議会報告(市政方針)

12月議会での市長説明をもとに状況を整理しました。

1. 市民病院

医師・看護師の確保、休止病棟の再開、糖尿病など専門外来の開設等全力で取り組んできた。今後も医師の確保を最大の課題とし、市民病院のあり方検討委員会の答申に基づき、市民に信頼される急性期病院としての役割と機能を果たしながら、健全経営に向け取り組む。

(注)「急性期」重点的かつ高密度な医療、高度な専門的手術・治療等も含まれる医療。「急性期」に対して、症状等が比較的落ち着いているが、長期にわたり療養が必要な医療を「慢性期」と言います。

2. 三田駅前再開発

キッピーモールでは、4階に100円ショップ・5階に損保会社と矯正歯科が開業。6階のまちづくり協働センターの利用促進とあわせてビル全体の賑わいと駅前の活性化につながると期待している。また、駐車場の運営については、新年1月より駐車場経営会社に委託(現在調整中)し、経営の効率化と収支改善を図る。これら対策により、当初の収支計画より十年近く改善が図られ、早ければ平成23年度には単年度収支の黒字化が見込めるのではと考えている。

Bブロック地区(キッピーモールの裏側)の再開発について、地権者による組合施行として、来年度設計開始、平成25年完成予定。(1階は商業施設、2～21階はマンション(290戸)で駐車場は立体320台)



三田駅前Bブロック地区再開発ビルのイメージです。右奥がキッピーモールです。その先が三田駅です。

3. ウッディタウン開発

ウッディタウン中央駅南側に整備する「センチュリープラザ」は4月下旬には、学習塾やコンビニエンスストア、診療所や調剤薬局など医療モール機能のある複合商業施設として新たにオープンできる見通しです。



センチュリープラザのイメージ。ウッディタウン中央駅を見た計画図です。

議会報告(委員会活動)

委員会

12/16: 都市環境常任委員会

- ・企業立地条例(操業から3年間の固定資産税と都市計画税免除)の対象期間3年間延長
- ・指定管理者(駐車場や市設備の委託管理)の更新

12/1、12/10、12/19: 議会運営委員会

- ・12月議会の議事・日程
- ・議員活動支援の申合せ(障害者の各要望に対応)
- ・議員公務範囲の確認(変更)
(議員公務を本会議・常任委員会・議運(以上従来) + 議員総会(以上新規)) ⇒ 代表者会を除外

びとう和広の視点

<定額給付金>

定額給付金は景気対策として、国民全員に1万2千円、子どもとお年寄りには+8千円を給付する2兆円の事業計画です。三田市でみると、給付金約17億円、支給処理に約1億円、合計18億円が国から交付されることになります。三田市にとって、財政が苦しいときの18億円です。職員の給与削減をはじめ市民の皆様まで痛みを伴う、この行財政改革のなか、お金を配るために1億円かける訳です。何かおかしくありませんか?

財源がないので、将来につけを回すだけです。今、市場に2兆円回れば一時的に景気が良くなるのかも知れませんが、仕組みが変わらなければ、本質的に何も変わりません。支給コストを考えると今回の個人支給ではなく、同額を各自自治体に任せたほうが良いと考え、民主党三田として三田市議会より麻生総理に意見書提出を提案しましたが、多数決で不採択でした。

<学校給食をめぐる諸課題について>

給食センター統合については、経費削減が先走りし「安全性」等に支障はないか、が今回の争点でした。県教委が定める「学校給食衛生管理マニュアル」において、早急に整備が必要な、13点中11点は改善が完了しており、残り2点についても順次整備を進めている。食材の納入は、従来から生産地や食材の細菌検査結果の提出を求めている。地場野菜の使用については、兵庫県よりエコファーマー認定農家より納入を受けており、現段階では安全性が確保できているようです。今後も積極的に確認を行なってまいります。

改選後初の市議会で一般質問!



後援会活動報告

日ごろより後援会活動にご理解・ご協力を賜り、感謝しております。昨年の市議会選挙では、本当にお世話になり、ありがとうございました。

各種会合に進んで参加させていただき、お礼を申し上げますが、まだ、お会いできていない方やいただいた要望の展開結果をまだ報告できていない方もおられます。改めて御礼申し上げますとともに、非礼の段、お詫び申し上げます

これからも、皆様の声を大切に、出来るだけお会いして、問題や疑問をお聞きして参ります。皆様から頂いた、一つ一つの案件に真剣に取り組む、その改正や実現に向けて全力で頑張ります。力強いご支援・ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。



活動報告・予定 ■11～1月の活動

■ 市・地区行事

- 11月・八景中文化祭・三田小音楽会・高校オープンスクール・シルバー人材センター20周年
- 12月・地区子ども会/老人会合同餅つき大会・北摂文化懇話会・マスターズマラソン
- 1月・新春寿ぐ会・成人式・商工会新年会

民主党兵庫県第5区より

びとう和広は、民主党の党員・地方議員としても、頑張っています。いろいろな課題に直面する中で、どうしても、県や国の制度変更・支援が必要な事案が出てきます。その際に、国・県・市の連携が必要です。

現在の日本の財政破綻をはじめ、格差の拡大や社会保障制度の崩壊をみると、しがらみの〇〇族といわれる議員を抱え、官僚に丸投げの政権の結果と言わざるを得ません。このままでは、本当の改革ができません。民主党はまだ未熟ですが、大きな枠組みから変える可能性を持っています。まずは、政権交代がその第一歩と思っています。そのためには、来たるべき総選挙において、兵庫5区の小選挙区で勝利することが、第一条件です。

皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

民主党兵庫県第5区総支部代表より

あけましておめでとうございます。

美藤議員並びに後援会の皆様、昨年中は大変お世話になり、誠に有難うございました。昨秋は解散総選挙が予想されながら結局は越年しましたが、いよいよ本年は日本の将来を決する重要な年となります。

先の小泉改革で弱肉強食の政策が行われ、地方と暮らし、社会保障、雇用が傷つけられました。さらに金融危機が世界を襲い、格差の拡大と地方の疲弊はますます進んでしまいました。麻生政権の迷走はそれに拍車をかけていると言っても過言ではありません。

今日、政治がやるべきことは、年金、医療、雇用において先行き不安を払拭するとともに保険料や税金を軽減したり、高速道路料金の無料化など、国民の可処分所得を増やし、地域社会と暮らしを支えることだと考えます。政権交代で必ずや官僚政治を転換し、国民のための政策を実現していく決意です。

何卒本年もよろしくお願い申し上げます。



民主党兵庫県第5区総支部代表
前衆議院議員 梶原やすひろ

びとう和広後援会より

新年あけましておめでとうございます。

後援会会員の皆様方には、日頃より力強いご支援・ご協力を賜り、誠に有難うございます。昨年は、皆様のお陰をもちまして、『びとう和広』、2期目も高位当選を果たすことができました。心より厚く御礼申し上げます。

『びとう和広』は、三田市全体と将来を思い、議会において、財政はじめ多くの課題に取り組むとともに、皆様とともに、安心・活力の政策として対応してまいります。

議会改革活動も精力的に進め、市政のチェックや後援会活動とあわせて、力強く邁進しております。

『びとう和広』は、これからも、後援会の皆様に少しでもお出合いができるよう、また、より多く皆様の声をお聞きし、問題解決に向け、全力で活動する所存でございます。まだまだ未熟ではございますが、精一杯頑張っております。本年も、皆様の倍旧のご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

びとう和広後援会 会長：長谷川 満敏

【びとう和広 後援会 連絡先】

<連絡先> 〒669-1513 三田市三輪2丁目3番33号
三菱電機労働組合三田支部気付
Tel: 079-563-1860 Fax: 079-563-5093

<自宅> 〒669-1537 三田市西山2丁目11番13号
Tel: 079-562-8653, Fax: 079-562-0730
<電子メール> bit@venus.dti.ne.jp
<ホームページ> <http://www.bito-kazuhiro.com>